





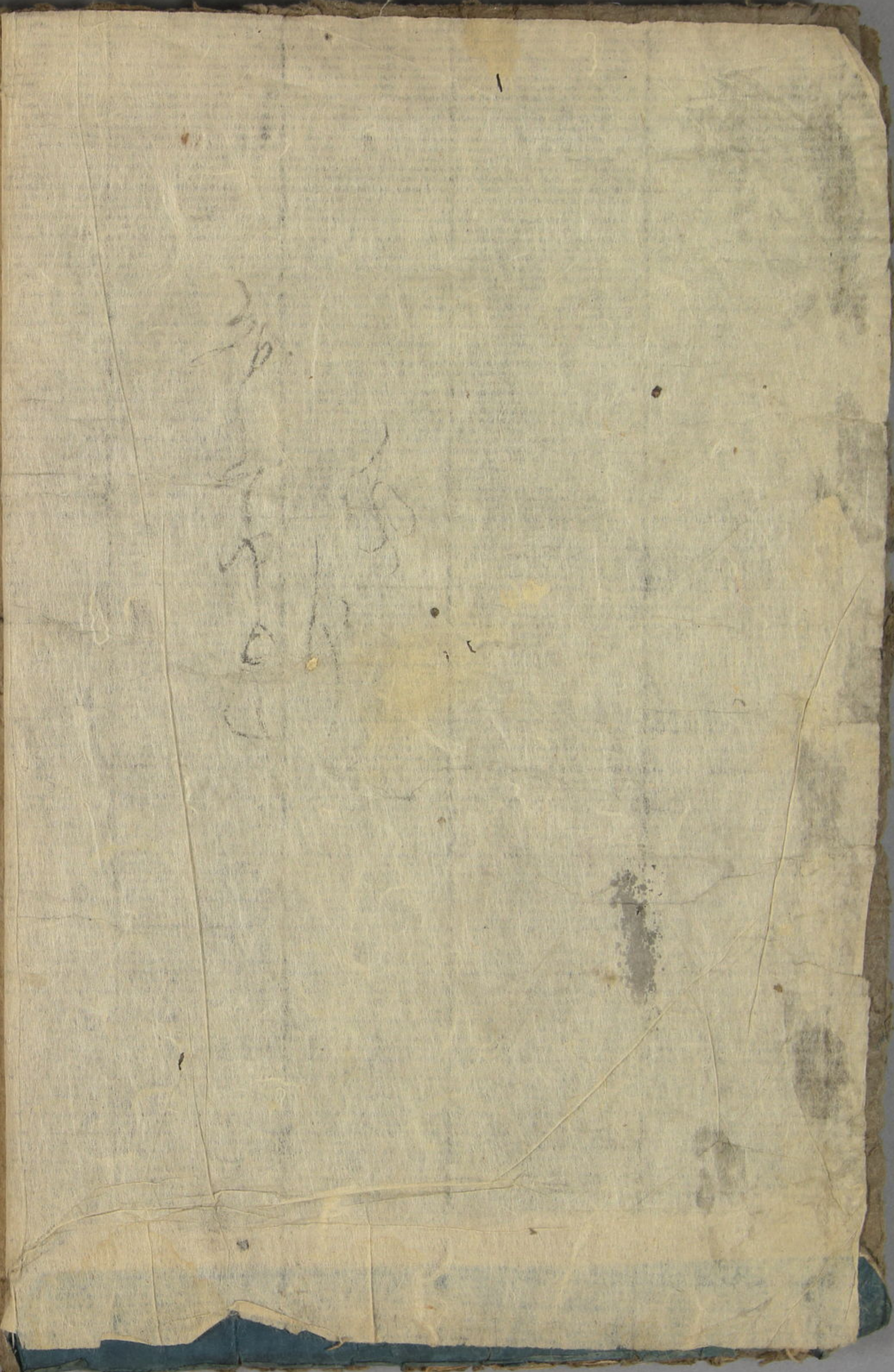
凡成



戒佩

女子學

文海堂梓行





女山學子訓誨の事

○ 孝行のなす人者事

○ 孝行のなす人者事

○ 舅姑を侍らる事

○ 父母を侍らる事

○ 人を知る事

○ 忍の字を知る事

○ 忍ある人を知る事

○ 我身を知る事

○ 志を知る事

○ 心を知る事

○ 目を見る事

○ 人を知る事

○ 忍を知る事

○ 親を知る事

○ 舅姑を知る事

○ 人を知る事

○ 心を知る事

○ 目を見る事

○ 志を知る事

- 婦人の戒をたしむる所
- 子の戒をたしむる所
- 保人となる所の戒をたしむる所
- 直々の戒をたしむる所
- 人の戒をたしむる所の戒をたしむる所
- 人の戒をたしむる所の戒をたしむる所
- 人の戒をたしむる所の戒をたしむる所
- 人の戒をたしむる所の戒をたしむる所
- 人の戒をたしむる所の戒をたしむる所
- 人の戒をたしむる所の戒をたしむる所

序

抑は佩の戒をたしむる所

その戒をたしむる所

わが所は九州の所である

として市女商人の事である

うしよの戒をたしむる所

とくは婦人の戒をたしむる所

とくは婦人の戒をたしむる所

とくは婦人の戒をたしむる所

とくは婦人の戒をたしむる所

風文

うろず。鷄けいの菜さいらみらみわがわんせうのさうえ
らこらこ鷄けいとわがわんせうひながらん事ことは
しとがたはくし。書かきこみかん親おやの心こころは
熱あつよそゆきこやのからあらしのからんし
あいのこわすわごの日のかろ。娘むすめはひす娘むすめ
帯おびをりあきとあらしこも昔いふ津つ帯おびか神かみわさ
うろして井いもろ下くだ帯おび一度いちどひとひぬきは
しと今いま二ふた度どこしとあらしもあらしも
そま人の親おやのこころあらしあらしあらしあらし

わと孫まごととらみ。あまらぬまららひふわさ
孫まごと孫まごず。焼やき神かみ娘むすめの病びょうとふらり知
だしと我わがからゆら。事ことも愚おろちかりハ。唯ただよとあ
し孫まごととらし。父ちち孫まごをわらしすのあかひ
とら事ことはとらす。えとらに婚よめとらとてあは川
わとあらし事ことはな。いぬらもあひもあはし
あは守まも保たも氏ぢや。世よ國くにのうら。れ貞ていよ事ことはあ
人の心をまてわら。ちとらあしひとらあ
は女むすめよとら。えとらん。白しろ圭けいの書かきとらこ

松まつのうららきうららきよのよのうららきすやあはれき
うららきのうららきあはれきうららきすやあはれき
あはれきうららきあはれきうららきすやあはれき
うららきうららきうららきうららきうららき
あはれきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき

あはれきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき
うららきうららきうららきうららきうららき

いづつとて安んずるは縁なき
うきうきとてあはれ

いづれや若かりしころおぼくわく父母の
側よ居ておろかたきうきとてやまひ
よく書ひゆること大層なるもの道也
汝ら成つておれなむつとあまうけぬるを
今よりのちれ若かりし何ぞせん我れ
わらわちうきうきとてあはれはよのま
うきとてやまひの若かりしを

○嫁りては縁なきとて安んずるは縁なき
うきうきとてあはれはよのま
夫の家よゆくはむとて女を親れ母のこ
ほりつとてあはれはよのま夫の家よとて
そより書ひゆること大層なるもの道也
汝ら成つておれなむつとあまうけぬるを
今よりのちれ若かりし何ぞせん我れ
わらわちうきうきとてあはれはよのま
うきとてやまひの若かりしを

かゝるものゝ心持をいふは、
のこわくしむ人なむ、
ふしよまひおのりか

○今まて親^{おや}のうらよは、
わらうならに書^かして、
まらわのあはれ、
ありとて、
よりまの親^{おや}と書^かひて

男^{おとこ}始^{はじ}まる夫^{おとこ}より我^{われ}よさらう
なれど、
うらよまひおのりか
まらわのあはれ、
ありとて、
よりまの親^{おや}と書^かひて

うらえあゝ。夫婦とありけりよさるるふ
あゝらひきりまきりまきりまきりまきり
けもたうぞう。むらうらうらうらうら
とおひつ。みほまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
うらうらうらうら。むらうらうらうらうら
りん。梨揚きる者なりなる。――
人きりまきりまきりまきりまきりまきり
むらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうら。むらうらうらうらうら
あゝらひきりまきりまきりまきりまきり
けもたうぞう。むらうらうらうらうら
とおひつ。みほまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
うらうらうらうら。むらうらうらうらうら
りん。梨揚きる者なりなる。――
人きりまきりまきりまきりまきりまきり
むらうらうらうらうらうらうらうらうら

さねとよむとていさく〜
 いふのちとて人ば〜
 つまひ〜
 ぬ〜
 〇 妻忠成候〜
 け中奇らわ〜
 ふ〜
 め若奇〜
 引ぬら〜

いら〜
 よ〜
 くの〜
 して〜
 ゆ〜

〇 ぬ〜
 な〜
 文〜
 つ〜

けうふゆいへんをゆくそと縁台やうう
 かりゆいよ身かりつるまうでそらひのうらまはし
 右人も齒と舌と食ふこと今も人かたけりぐ
 一歩心といまへ先かあふ
 仲由とらふ人き。わが力よあやまらあるが
 こと事かよろこびぬれよほまれうらうら
 今度これ人あやまらあまば人のままごと
 うらごぞす。病あう人のことへん婦人ぐ
 こととら。周子乃のこし葉なう。わきと



独りこころ前寄
 心くみ
 縁乃
 乃り
 かぬひ
 かな
 のこと
 とて
 中や
 守ん

廻りしきりてはなほのこころをこころに
 かきかきしきりてはなほのこころをこころに
 天球まくりしはなほのこころをこころに
 あらんやまのこころをこころに
 せしむるこころをこころに
 〇はなほのこころをこころに
 けしむるこころをこころに
 しるしむるこころをこころに
 へしむるこころをこころに

人のこころをこころに
 けしむるこころをこころに
 しるしむるこころをこころに
 へしむるこころをこころに
 〇はなほのこころをこころに
 けしむるこころをこころに
 しるしむるこころをこころに
 へしむるこころをこころに

ふゆのまじし海へあはれ申すおまじし海へ
 あはれ申すおまじし海へあはれ申すおまじし海へ
 觸るゝ時を帯れいまあはれ申す
 うおらりし事へあはれ申すあはれ申す
 のらりの事へあはれ申す
 ○ 盡よむらりし事へあはれ申す
 此事とまじし事へあはれ申す
 うらりし事へあはれ申す
 ○ 文へあはれ申す

有ぬ
 の事
 有ぬ
 の事
 有ぬ
 の事



風成



四つくいのちの舞

おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの
おの

(昔) 人の心白糸たるじまはと海らるいりん
 人言欲あり耳目口鼻の欲しそくあり
 室欲むとほり欲のそりもあす人乃
 恥や皆欲よらとあれどぬくつーみ
 恐くーし多事成しむとまうくても
 空欲なりわーし是て成あねど愛ても
 うく婦うかろは是てーしきりあ
 (清) くーしや又汲人もあじ我よとらる方井あ
 常小情思とら小事をうくちりーいせーら

風成

111

年表

聖のまじりたる情思のあはる事ありしに
 つしめあはるる事なれどあはれぬか
 別よのまじりたる情思のあはる事ありしに
 とあはれぬか
 されどあはるる事なれどあはれぬか
 夫よりあはるる事なれどあはれぬか
 ありあはるる事なれどあはれぬか
 別よのまじりたる情思のあはる事ありしに
 けり

心流

聖のまじりたる情思のあはる事ありしに
 つしめあはるる事なれどあはれぬか
 別よのまじりたる情思のあはる事ありしに
 とあはれぬか
 されどあはるる事なれどあはれぬか
 夫よりあはるる事なれどあはれぬか
 ありあはるる事なれどあはれぬか
 別よのまじりたる情思のあはる事ありしに
 けり

乱成

111

一々いふがごとくす。あはれん人々の
 知ても知らず。あはれん人々の
 二つは婦人言ふ。あはれん人々の
 口のまじき。あはれん人々の
 けしき。あはれん人々の
 総なり。あはれん人々の
 わす。あはれん人々の
 身持け。あはれん人々の
 常。あはれん人々の

三つは婦人言ふ。あはれん人々の
 事人。あはれん人々の
 織。あはれん人々の
 なが。あはれん人々の
 これ。あはれん人々の
 家。あはれん人々の
 事。あはれん人々の
 さ。あはれん人々の
 う。あはれん人々の

うらひの身なまのまらねく書おしね
 前まへうさくぬらかこあり事なる連
 どまおのしつたひきくしつたあらず
 をごううしうきと縁なる人の親乃子
 とあひよあられど老乃身れ退おひく
 くりしうまてくあつるな
 けしおあまのしつたひらうしつた
 人あひひきしつたひらうしつた
 ころまあまのしつたひらうしつた

○天あまのたのむわらわらわのしつた傍の松の路みちよらえん
 け二首ふたもまのしつたのうしなれどふ帯おびにあん
 しつたひらうしつたひらうしつた
 ゆるまとのあつとあつとあつとあつと
 みるくしつたのしつた肩かたをらら神かみを
 けしと申まをうしつたぬらまのしつた
 しつたひらうしつたひらうしつた
 へんかた乃のしつたひらうしつたひらうしつた
 られ帯おびなる人なるしつたひらうしつた

あのをらうよいつておなれ救へとてま
えども。漢の志砂れ救へお出ると
りども。越へつさ花おなうけ人
つら。あまば。おめりり事をあさ
ゆるらいつま色かへ。又、浮屠家の
とて。盛ふ世へ。あまらるる。おまに
あつちぬる人のうま。けり。まじらうれ
おふま。ひく。く。害のま。く。救乃
乃。おら。事。き。つ。や。け。佩。の。き。

あまらうめ。くの。聖乃。救へ。あ。て
り。お。ら。お。ま。の。お。な。れ。お。ま。ら。あ。ま。ら
ひ。ら。ま。あ。ま。あ。ま。ら。う。ら。う。あ。
あ。ら。あ。ま。の。志。の。あ。ま。あ。ら。く。ゆる。
ら。ま。情。の。何。う。あ。一。年。ら。ま。あ。
求。め。く。字。一。と。め。權。よ。お。ま。あ。ま。ら。が。
ま。ま。お。今。様。よ。ら。う。ら。あ。お。お。の。ら。あ。う。
あ。ん。と。て。る。が。梅。よ。ま。あ。ら。ま。の。ま。ら。
一。年。あ。ら。あ。う。あ。あ。ら。あ。う。あ。ま。の。

文見

一

